

高齢者の介護予防に、新たな健診を開発し、受賞

鈴木隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長

第 1 回 遠山椿吉賞授賞式、2 月 9 日開催!

財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」

財団法人東京顕微鏡院と医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」は、創設した予防医療に貢献する研究者の顕彰制度、「遠山椿吉（ちんきち）賞」第 1 回受賞者に、高齢者の介護予防に新たな健診を開発した、国立長寿医療センター研究所の鈴木隆雄所長を決定しました。

また、特別賞として、心筋梗塞や脳卒中などの危険因子とされる、血中脂質に関する国際的な標準化の研究を行ってきた、大阪府立健康科学センター 脂質基準分析室の中村雅一室長を決定しました。

授賞式・記念講演は、平成 22 年 2 月 9 日（火）、都内で関係者を招き開催いたします。

受賞理由：

鈴木氏は、高齢者の介護予防には疾病予防だけでは不十分との観点から、老年症候群の早期発見・早期対応を図る大規模長期縦断疫学研究を、東京都老人総合研究所（現 東京都健康長寿医療センター）在職時に実施。開発した高齢者のための包括的健診システムと具体的な介護予防策は、平成 18 年度の国の介護保険法改正に伴う「介護予防」施策に役立てられました。わが国の政策課題や公衆衛生学上への貢献が高く評価されたものです。

中村氏は、一般の臨床検査機関が世界に通用する測定精度で血中脂質の測定ができる環境を整備し、脂質分析の精度向上と、国民の公衆衛生の向上に努めたことが評価され、特別賞受賞が決まりました。

本賞の趣旨：

創業者生誕 150 年を記念して創設した本賞は、病を早期に発見し、治療へつなげるといふ予防医療の基本目標について、地道に社会への貢献を追求する研究者を顕彰する賞と位置づけています。平成 21 年度は、将来の予防医療のテーマに先見的に着手したものを優先課題として募集・選考しました。

日本では、総人口に占める高齢者の割合が 22%を超え、後期高齢者といわれる 75 歳以上人口の割合が初めて 10%を超え、世界のどの国も経験したことのない超高齢社会が到来しています。（2008 年度「高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況」（高齢社会白書・内閣府）

遠山椿吉とは：

遠山椿吉は、明治時代に、日本で初めて臨床検査の専門機関「東京顕微鏡院」を創立し、公衆衛生に力を尽くした細菌学者。初代東京市衛生試験所所長を兼任し、東京に安全な水道水の供給を実現して伝染病予防に努め、予防医療を提唱して健康診査を実施しました。

報道機関からのお問い合わせ先：

財団法人東京顕微鏡院 公益事業室 担当 三橋（みつはし）TEL03-5210-6651

メール：mitsu@kenko-kenbi.or.jp

ホームページ：<http://www.kenko-kenbi.or.jp/>

<http://www.genkiplaza.or.jp/>